

超耐候・超低汚染型変性無機塗料
ダイヤスーパーセラシリーズ

超耐候・超低汚染型変性無機塗料

F☆☆☆☆

ダイヤスーパーセラシリーズ

超 耐 候 性

超 低 汚 染 性

難 燃 性

高 硬 度

フレキシブル性

超耐候・超低汚染型変性無機塗料

ダイヤモンドスーパーセラシリーズ

実績に裏付けられた信頼

変性無機塗料『ダイヤモンドスーパーセラ』の進化

無機塗料が進化を遂げるまでには長い努力の道のりがありました。

無機塗料の出発点——土木分野

不燃・超耐候・超低汚染 無機塗料
「ダイヤセラゼックス」発売

1995年発売以来様々な実績 1995年



建築分野

2002年 建築用として柔軟性を付加
有機成分をハイブリッド

【強溶剤タイプ】
超耐候・超低汚染型変性無機塗料
「ダイヤモンドスーパーセラ」発売



2006年 環境配慮型に
【水性タイプ】
超耐候・超低汚染型変性無機塗料
「ダイヤモンドスーパーセラアクア」発売

2004年 建築用としてさらなる作業性の進化
【弱溶剤タイプ】
超耐候・超低汚染型変性無機塗料
「ダイヤモンドスーパーセラマイルド」発売



五稜郭タワー

テレビ愛知電波塔

第2近江ビル

ベイマークスクエア

都市ガス タンク

菅生配水高池防水外工事

S邸

プラタナスの丘・訪問介護ステーション

国立能楽堂

『本物の無機塗料』としての品質を評価 いただいている証が全国各地にわたる実績

ダイヤスーパーセラシリーズ

— 2002年3月上市より積み重ねられた実績 —

スタジアム

高硬度

超耐候性

改修工事前

千葉マリンスタージアム（現QVCマリンフィールド）は1990年3月開場時、ウレタン樹脂塗料により仕上げられていました。紫外線の厳しい環境下、塗膜の劣化が激しく、8年後の1998年、スタジアム正面部分を耐候性に優れたフッ素樹脂塗料にて改修塗装されています。それでも、当スタジアムを象徴する鮮やかなブルーの外壁は強い海風、飛砂や海塩粒子で傷つき、変褪色が進行、金属部の腐食も目立つようになり、2003年春には再度改修塗装の検討が始まります。

スーパーセラに期待されたのはイメージカラーである外壁のブルーの美観を長期にわたって維持することでした。紫外線に対する無機の耐候性（耐紫外線）の高さと傷がつきにくい高硬度（鉛筆硬度6H）の塗膜性能を評価されたことによりです。

施工開始から完成

2003年12月、プロ野球のシーズンオフ期間しか施工できない施設であるため、4年、4期に分割しての塗装工事となりました。厳しい環境下での4年の歳月による塗膜の経年差が懸念されながらの着工でした。

2006年 最終工期の塗装箇所（1塁側）と最初の塗装部分（外野側）がなくなり、塗装工事は完了します。

工事開始当初の懸念は見事に払拭され、最初の塗装箇所と最後の塗装部分の見分けがつかない仕上がりになりました。

現在

ダイヤスーパーセラは見事に美しさを保ち続けています。

After

13年経過



13年経過



Before



完成

ガスターミナル

超低汚染性

超耐候性

改修工事前

2000年5月、三河湾から50mという塩害地域に設置されたガスタンクは、海風や海塩粒子により艶引けや腐食に加えて雨だれ汚染も顕著で、タンク下部に発生した藻に至っては拭き取りによる除去もできませんでした。

ここでも無機の耐候性の高さと高硬度の塗膜性能、超低汚染性を期待されて採用されました。

改修工事

2003年6月、劣化した塗膜、腐食した部分を丁寧にケレン除去した後、錆止め塗料とスーパーセラが塗装されました。

現在

施工直後、塗膜の化学反応が完全に収束するまでの期間、雨筋汚染の発生が見られたものの、半年を超えた頃からセルフクリーニング機能が発現して雨筋汚染は完全に消滅しました。

4年目、9年目、12年目に追跡調査を行っており、現在に至るまで改修当初の輝きを保っていることが確認されています。

Before



After

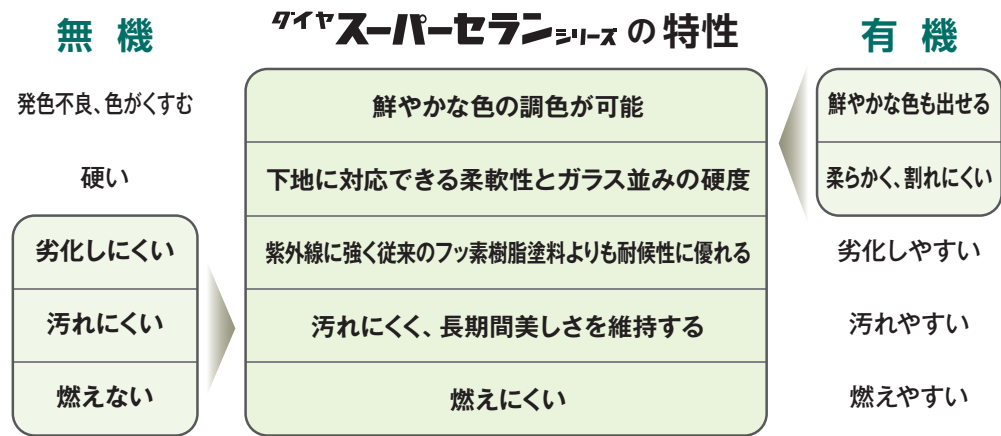
施工完了



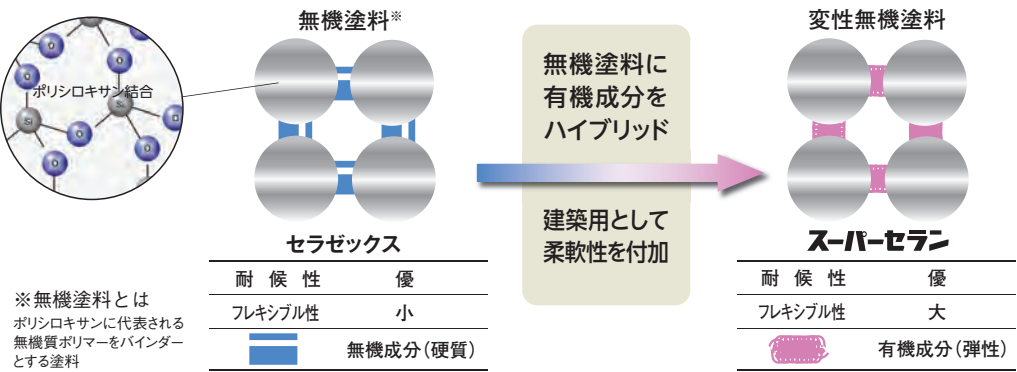
経年12年



有機成分で無機の短所をカバーすることにより
無機の特長を最大限発揮させることに成功しました。



スーパーセラの仕組み 土木分野で培った技術を生かし生み出された塗料



塗料種類	塗膜イメージ図
スーパーセラ (無機成分含有量 50%)	
汎用無機塗料 (無機成分含有量 30%)	
無機有機ハイブリッド シリコン樹脂塗料 (セラミックハイブリッドシリコン塗料)	

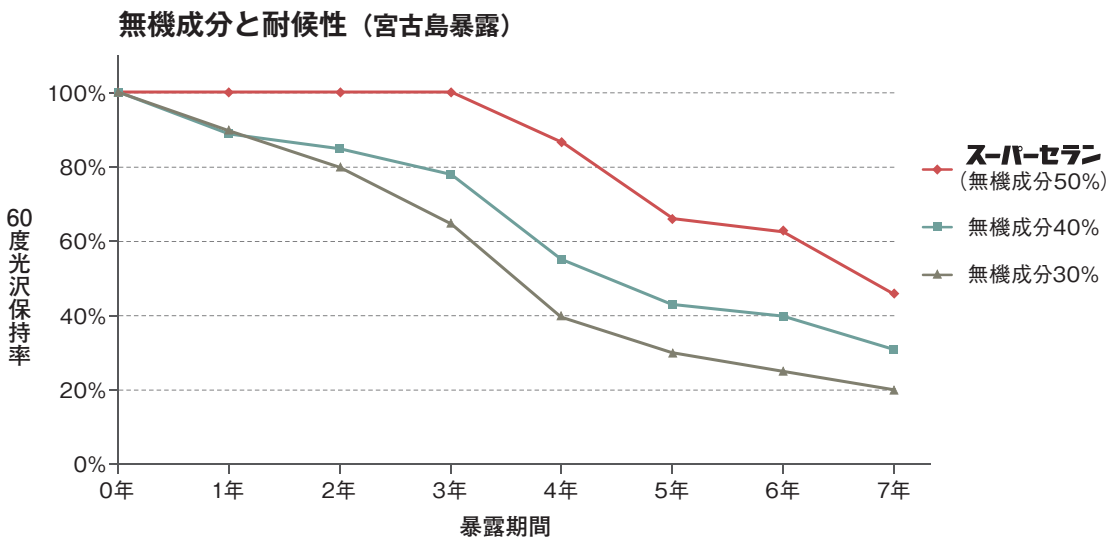
● ポリシロキサン結合 ● 有機成分 — アクリル樹脂 ■ セラミック成分 ※セラミック成分は塗料を低汚染化するが耐候性には影響しない

『汎用無機塗料』や『無機・有機ハイブリッド樹脂塗料』との決定的な違い。

無機成分含有率

無機塗料として進化を重ね2002年より長期にわたり支持されてきたスーパーセラシリーズ

性能を左右する無機含有率 **スーパーセラ** は
塗料中 無機分 **50%**



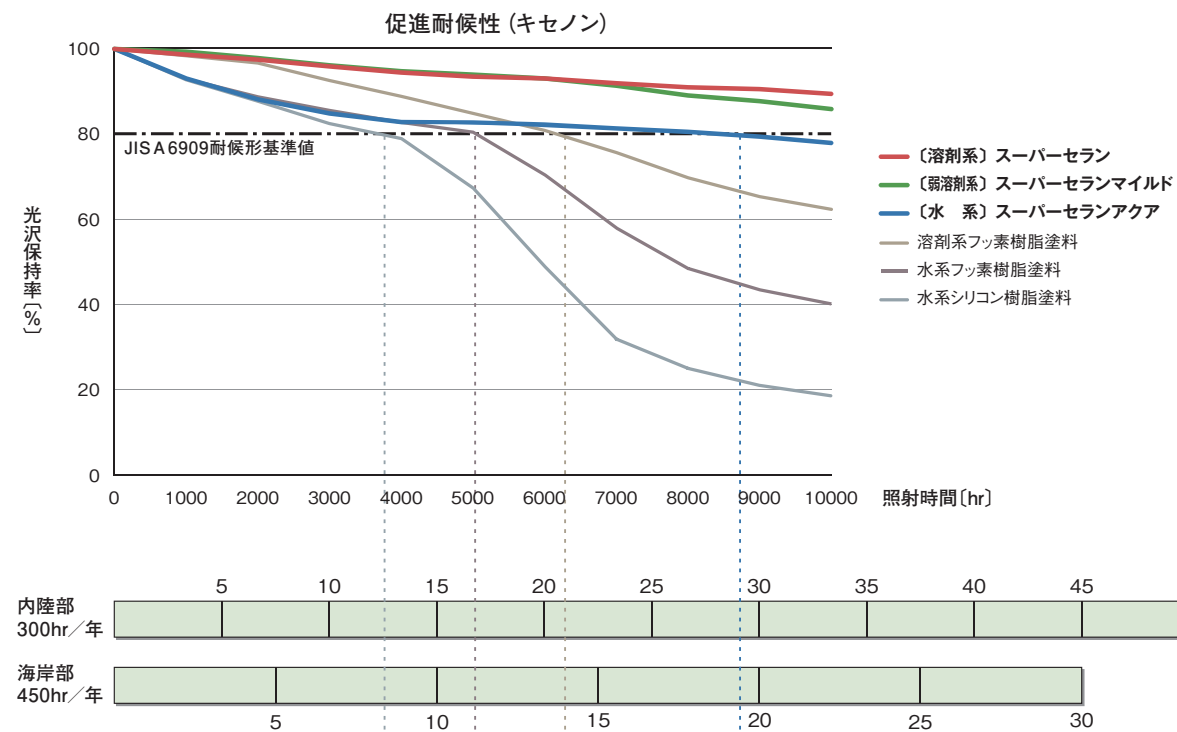
屋外暴露試験とは、塗装した試験片を屋外に設置し、紫外線や熱、風雨等による経時変化を確認する試験です。スーパーセラは最も条件の厳しい沖縄県宮古島の試験場で30°の傾斜設置にて比較試験を行いました。これは、平均内陸部外壁面の約5倍に相当する過酷な条件と当社では考えております。上記データは、無機成分含有率30%品、40%品、スーパーセラとの比較試験を行った結果です。

無機成分含有量	50%	30%
耐候性 (宮古島暴露 7年)	白亜化等級1 	白亜化等級4
汚染性 (東京都暴露 2年)		

超耐候性

変性無機塗料の最大の特長、フッ素樹脂塗料をしのぐ耐候性が建物の美観を長期にわたり維持し、保護します。

キセノンウェザーメーター 促進耐候性試験

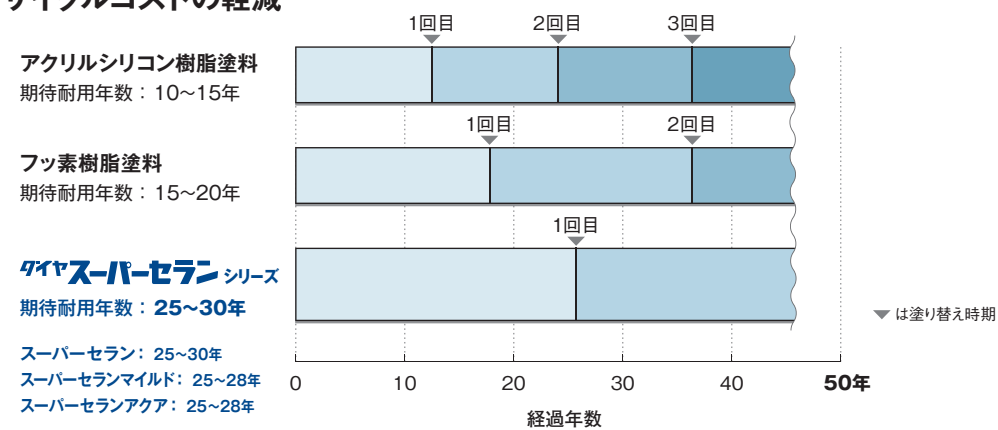


【期待耐用年数について】

塗膜は紫外線や熱、風雨等の劣化因子により段階的に性能が低下していきます。一般的には、汚れや変退色に始まり、その後、表面劣化が進行し、チョーキング（白亜化）が発生、さらに進行するとひび割れや剥離等が発生します。期待耐用年数は、標準的な環境（地域や部位、部材の条件を除く）において、塗膜の持つ下地保護機能が低下する時点までの期間（次回の改修を行うに至るまでの標準的な年数）の目安として設定しております。よって、気象条件の厳しい地域や、天端や斜壁などの部位、蓄熱性の高いボード類など環境条件の厳しい面に施工された塗膜は目安とされた期待耐用年数よりは早期の劣化が予測されます。

当社は期待耐用年数を設定するにあたり、JISに定める規格値 光沢保持率80%を参考にはしておりますが、その基準が下地保護機能が低下する時点とは考えておりません。実際の建物では、チョーキングが進行しひび割れや剥離が広範囲に発生する手前が下地保護機能の低下時点と考えられております。当社は促進試験データによる塗膜劣化の傾向と実曝におけるそれ以外の劣化因子を考慮して、蓄積されたデータより保護機能の低下時点を推測し、期待耐用年数を設定しております。

ライフサイクルコストの軽減



塗り替え回数を減らす事でコストを抑える事が可能です。

高硬度

6Hの硬度を持つ強靱な塗膜が吹きつける黄砂や海沿粒子など物理的ダメージによる攻撃から建物を守ります。

硬度試験 (JIS K 5600)	
製 品	結 果
ダイヤスーパーセラ	6H
ダイヤスーパーセラマイルド	5H
ダイヤスーパーセラアクア	3H
低汚染形フッ素	F ～ H
低汚染形シリコン	HB ～ 3H
低汚染形ウレタン	H ～ 2H

超低汚染性

高硬度の塗膜が汚染物質を寄せつけず、親水性の塗膜が雨水で汚れを落とす特性を持ちます。

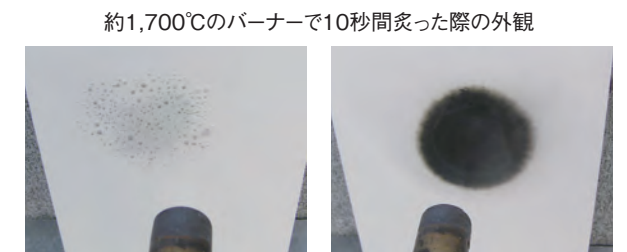
難燃性

無機の特長である難燃性により塗膜は燃えず、火災による有害物質の発生を抑制します。



ダイヤスーパーセラ

フッ素樹脂塗料



ダイヤスーパーセラシリーズ

フッ素樹脂塗料

約1,700℃のバーナーで10秒間炙った際の外観

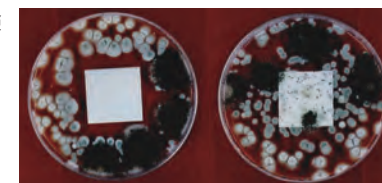
防カビ・防藻性

防カビ防藻性を有し、カビや藻が生えにくい特長を持ちます。

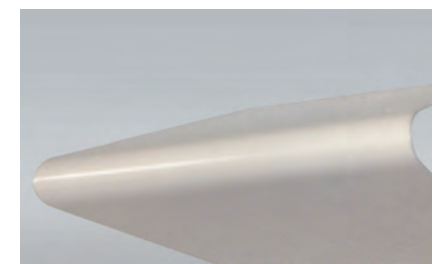
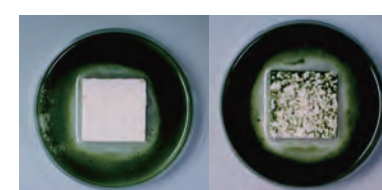
フレキシブル性

有機成分とのハイブリッド化により、強靱な塗膜でありながら柔軟性を持ち、微弾性フィラーにも対応できます。

防カビ試験
(JIS Z 2911)



防藻試験



多岐にわたるニーズに対応する豊富なバリエーション

DIA SUPER CERAN

強溶剤タイプ

●平滑仕上げ

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具	
					工程内	工程間		
1	下地調整	①劣化した旧塗膜は電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。 ②既存塗膜のチョーキング、ほこり、汚れ等を高圧水洗浄等で除去・清掃して下さい。						
2	下塗り	ダイアセランプライマーS ダイアシナーPS A液 B液 エアレス 刷毛・ローラー	14kg 2kg 2～5% 0～3%	0.1～0.15kg/㎡ 107～160㎡/セット	1	—	2時間～7日	ローラー、刷毛、エアレス
3	上塗り	ダイアスーパセラン ダイアセランシンナー A液 B液 エアレス 刷毛・ローラー	10kg 2kg 3～6% 0～3%	0.2～0.3kg/㎡/2回 40～60㎡/セット/2回	2	エアレス 4時間以上 ローラー 16時間以上	—	ローラー、刷毛、エアレス

●塗装面の塗り替え

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
1	下地調整	①劣化した旧塗膜は電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。 ②既存塗膜のチョーキング、ほこり、汚れ等を高圧水洗浄等で除去・清掃して下さい。					
2	下塗り	ダイアアクリスエボ 清水 中毛ローラー	16kg 0.8～1.6%	0.6～1.0kg/㎡/2回 16～26㎡/缶	2	5時間以上	中毛ローラー
		ダイアアクリスエボ 清水 多孔質ローラー・吹付	16kg 0.4～0.8%	0.8～1.0kg/㎡ 16～20㎡/缶	1	—	16時間以上 多孔質ローラー・吹付
		ダイアアクリスエボ 清水 エアレス	16kg 0.8～1.6%	0.6～1.0kg/㎡ 16～26㎡/缶	1		中毛ローラー
		ダイアスーパセラン微弾性用 ダイアセランシンナー A液 B液 エアレス 刷毛・ローラー	10kg 2kg 3～6% 0～3%	0.25～0.35kg/㎡ 34～48㎡/セット/2回	2	エアレス 4時間以上 ローラー 16時間以上	ローラー、刷毛、エアレス

※ ダイアアクリスエボを中毛ローラーで施工する場合、既存塗膜の劣化状態によっては、浸透した溶剤による膨潤等の不具合が発生することが考えられます。
多孔質ローラーでの施工をおすすめしますが、中毛ローラーで施工される場合は2回塗などの措置を講じ、0.6kg/㎡以上の塗布量を確認するようにして下さい。
※ ダイアアクリスエボの代わりにダイアアクリスフィラーもご使用いただけます。
※ 既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、工程2の前にダイアガンコシーラー又はダイアワイドシーラーを塗布して下さい。

●鉄部、塗装鋼鉄、アルミ、ステンレス（但し、既存塗膜がフッ素樹脂塗料等の場合は除く）の塗り替え

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
1	下地調整	①電動工具・手動工具を用いて劣化した旧塗膜を除去し、発錆部は2種ケレン（SSPC-SP3、ISO St3）程度まで除錆して下さい。 ②旧塗膜の活膜部についてはチョーキング・塩類等の付着物を高圧洗浄やサンドペーパー掛け等の方法で除去・清掃して下さい。 ③油脂類は塗料用シンナー等の溶剤を用いて入念に脱脂して下さい。					
2	補修塗り 素地露出面	ダイアハイエボプライマー ダイアエボキシ用シンナー A液 B液 刷毛・ローラー	17kg 3kg 0～1.2%	—	—	1時間～7日	ローラー、刷毛
3	下塗り	ダイアハイエボプライマー ダイアエボキシ用シンナー A液 B液	17kg 3kg 0～1.2%	0.2～0.3kg/㎡ 66～100㎡/セット	1	—	16時間～7日 ローラー、刷毛、エアレス
4	上塗り	ダイアスーパセラン ダイアセランシンナー A液 B液 エアレス 刷毛・ローラー	10kg 2kg 3～6% 0～3%	0.2～0.3kg/㎡/2回 40～60㎡/セット/2回	2	エアレス 4時間以上 ローラー 16時間以上	ローラー、刷毛、エアレス

※SPCC・・・Steel Structures Painting Council（アメリカ鉄鋼造物塗装審議会） ISO・・・International Standard（ISO 8501-1:1998）

*1 間隔時間は、温度23℃、湿度50%の場合です。冬期、夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなりの差異がありますので注意して下さい。
*2 所要量は、下地の形状・状態により変動します。
*3 ダイアスーパセラン、スーパセラン微弾性用の調合後の可使用時間 春秋冬：8時間以内 夏：3時間以内 です。
*4 ダイアスーパセランは、スプレータイプとローラータイプがあります。
*5 ダイアセランシンナーは温度条件に合わせて発揮性の異なるシンナーを4種類用意しておりますのでそれぞれの条件に合ったシンナーをご使用下さい。
*6 既存塗膜がフッ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料、無機塗料や光触媒の場合は別途お問い合わせ下さい。

弱溶剤タイプ

●平滑仕上げ

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
1	下地調整	①劣化した既存塗膜は電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。 ②既存塗膜のチョーキング、ほこり、汚れ等を高圧水洗浄等で除去・清掃して下さい。					
2	下塗り	ダイアスーパセランマイルド ダイアシンナーN 刷毛・ローラー	A液 10kg B液 2kg エアレス 3～6% ローラー 0～2%	0.2～0.30kg/㎡/2回 40～60㎡/セット/2回	2	エアレス 4時間以上 ローラー 16時間以上	中毛ローラー、刷毛、エアレス

※既存塗膜の劣化や、下地の吸い込みが著しい場合は下塗材（ダイアガンコシーラーマイルド）をご使用下さい。

●塗装面の塗り替え

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
1	下地調整	①劣化した旧塗膜は電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。 ②既存塗膜のチョーキング、ほこり、汚れ等を高圧水洗浄等で除去・清掃して下さい。					
2	下塗り	ダイアアクリスエボ 清水 中毛ローラー	16kg 0.8～1.6%	0.6～1.0kg/㎡・2回 16～26㎡/缶・2回	2	5時間以上	中毛ローラー
		ダイアアクリスエボ 清水 多孔質ローラー・吹付	16kg 0.4～0.8%	0.8～1.0kg/㎡ 16～20㎡/缶	1	—	16時間以上 多孔質ローラー・吹付
		ダイアアクリスエボ 清水 エアレス	16kg 0.8～1.6%	0.6～0.8kg/㎡ 20～26㎡/缶	1		中毛ローラー
3	上塗り	ダイアスーパーセランマイルド A液 B液 ダイアシンナーN エアレス 刷毛・ローラー	10kg 2kg 3～6% 0～2%	0.25～0.35kg/㎡ 34～48㎡/セット・2回	2	エアレス 4時間以上 ローラー 16時間以上	— 中毛ローラー、刷毛、エアレス

※ ダイアアクリスエボを中毛ローラーで施工する場合、既存塗膜の劣化状態によっては、浸透した弱溶剤による膨潤等の不具合が発生することが考えられます。
多孔質ローラーでの施工をおすすめしますが、中毛ローラーで施工される場合は2回塗などの措置を講じ、0.6kg/㎡以上の塗布量を確認するようにして下さい。
※ ダイアアクリスエボの代わりにダイアアクリスフィラーもご使用いただけます。
※ 既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、工程2の前にダイアガンコシーラーマイルドまたはダイアワイドシーラーを塗布して下さい。

●鉄部・塗装鋼鉄の塗り替え

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具	
					工程内	工程間		
1	下地調整	①電動工具・手動工具を用いて劣化した旧塗膜を除去し、発錆部は2種ケレン(SSPC-SP3,ISO St3)程度まで除錆して下さい。旧塗膜は全面表面あらし後、清掃ケレンを行って下さい(詳細、仕様書参照)。 ②こけ、ごみ等付着物、汚れ、劣化塗膜がある場合は、密着能力低下の原因となりますので、入念に除去し、油分は溶剤にて拭き取って下さい。 ③旧塗膜の活膜部については、チョーキング・塩類等の付着物を高圧洗浄、サンドペーパー掛け等の方法で除去・清掃して下さい。						
2	発錆部 補修塗り	ダイアヒスイエボサビ#200A 基 剤 硬化剤 ダイアシンナーN	14.4kg 1.6kg 0~2%	—	—	4時間~7日	中毛ローラー、刷毛	
3	下塗り	ダイアヒスイエボサビ#200A 基 剤 硬化剤 ダイアシンナーN	14.4kg 1.6kg 0~2%	0.16kg/㎡ 100㎡/セット	1	—	4時間~7日	中毛ローラー、刷毛
4	上塗り	ダイアスーパセランマイルド A液 B液 ダイアシンナーN エアレス 刷毛・ローラー	10kg 2kg 3~6% 0~2%	0.2~0.3kg/㎡ 40~60㎡/セット/2回	2	エアレス 4時間以上 ローラー 16時間以上	—	中毛ローラー、刷毛、エアレス

※SPCC・・・Steel Structures Painting Council（アメリカ鉄鋼造物塗装審議会） ISO・・・International Standard（ISO 8501-1:1998）

*1 間隔時間は、温度23℃、湿度50%の場合です。冬期、夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなりの差異がありますので注意して下さい。
*2 所要量は、下地の形状・状態により変動します。
*3 ダイアスーパセランマイルドの調合後の可使用時間 春秋冬：4時間以内 夏：2時間以内 です。
*4 既存塗膜がフッ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料、無機塗料や光触媒の場合は別途お問い合わせ下さい。

水系タイプ

●平滑仕上げ

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具	
					工程内	工程間		
1	下地調整	①劣化した旧塗膜は電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。 ②既存塗膜のチョーキング、ほこり、汚れ等を高圧水洗浄等で除去・清掃して下さい。						
2	下塗り	ダイワワイドシーラー (無希釈)	15kg	0.1～0.15kg/㎡ 100～150㎡/セット	1	—	2時間以上	中毛ローラー、刷毛
3	上塗り	ダイアスーパセランアクア A液 B液 清水	15kg 1kg 0～1.6%	0.2～0.3kg/㎡ 50～80㎡/セット/2回	2	2時間以上	—	中毛ローラー、刷毛、エアレス

※ 既存塗膜の劣化や下地の吸い込みが著しい場合はダイアワイドシーラーを2回塗りして下さい。

●塗装面の塗り替え

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
1	下地調整	①劣化した旧塗膜は電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。 ②既存塗膜のチョーキング、ほこり、汚れ等を高圧水洗浄等で除去・清掃して下さい。					
2	下塗り	ダイアアクリスエボ 中毛ローラー 多孔質ローラー エアレス 清水	16kg 0.8～1.6% 0.4～0.8% 0.4～1.6%	0.3～0.5kg/㎡ 0.8～1.0kg/㎡ 0.6～1.0kg/㎡	1	— 5時間以上 16時間以上 16時間以上	中毛ローラー、多孔質ローラー、 エアレス
3	上塗り	ダイアスーパーセラアクア A液 B液 清水	15kg 1kg 0～1.6%	0.25～0.35kg/㎡ 45～64㎡/セット/2回	2	2時間以上 —	中毛ローラー、刷毛、エアレス

※ ダイアアクリスエボの代わりにダイアアクリスフィラーもご使用いただけます。
※ 既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、工程2の前にダイアガンコシーラーマイルドまたはダイアワイドシーラーを塗布して下さい。

*1 間隔時間は、温度23℃、湿度50%の場合です。冬期、夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなりの差異がありますので注意して下さい。
*2 所要量は、下地の形状・状態により変動します。
*3 ダイアスーパセランアクアの調合後の可使用時間 春秋：5時間以内 夏：3時間以内 冬：8時間以内 です。
*4 既存塗膜がフッ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料、無機塗料や光触媒の場合は別途お問い合わせ下さい。

【施工・管理上の注意】

①セメント質下地は、表面の含水率が10%以下（pH10以下）になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
②材料が付着乾燥しますと取れまので、塗布面周辺の養生を完全に行い、施工時に建物の周辺に飛散しないようにして下さい。養生テープは塗膜厚を考慮して、強度の高いものを使用して下さい。また、施工後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと残りが残ります。
③下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥が不十分な場合、色ムラ、剥離等の原因となります。
④施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いムラの原因になります。
⑤施工環境が気温5℃以下の場合、湿度85%RH以上の場合、結露が発生する可能性がある場合、外部の施工で降雨が予想される場合には施工を避けて下さい。仕上り不良、剥離などの不具合が発生し、本来の塗膜性能を発揮出来ないおそれがあります。
⑥施工後24時間以内に降雨、結露等、水の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
⑦本施工に入る前に試験塗りをを行い、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
⑧希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合等は少なめに希釈して下さい。
⑨下地の吸込ムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
⑩常に結露が発生する地域・時期・場所での施工は避けて下さい。
⑪工程間隔時間は遵守して下さい。
⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
⑬材料の保管は気温5～35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
⑭シーリング材の上に施工することは避けて下さい。汚染、ひび割れ、剥離などの不具合が発生するおそれがあります。必要と塗布する場合は、シーリング材との塗り重ね適合性を充分確認のうえ施工して下さい。
⑮塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
⑯建物の部位（斜壁、笠木のないラベット、庇、鼻先、日陰の当たらないペランダの内壁など）によっては十分な低汚染性を発揮できない場合があります。
⑰施工後、塗膜が乾燥するまでに、降雨などにより水分の影響を受ける状態が継続された場合、低汚染機能が発現しないことがあります。乾燥までに降雨や積雪、結露が予想される場合は施工を避けて下さい。
⑱予想外の降雨などが発生した場合は、シート養生などを行い塗装面が濡れないよう対策を講じて下さい。
⑲施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。雨掛りでない部位や斜壁、水切りが不十分な面や窓まわり及びその下側面などは、低汚染機能が発現しないことがあります。
⑳シーリング材などに含まれる可塑剤、煤煙や油類、サビ汁などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
㉑上塗は塗布量を厳守し均一に施工して下さい。塗布量が少ない場合は低汚染機能が十分に発揮されません。
㉒塗布面の吸い込みが大きい場合は、下塗などにより吸い込みを少なくし、上塗が塗布面に吸い込まれないようにして下さい。表面に上塗材が十分に確保されていないと耐候性、低汚染機能が発揮されません。
㉓A液とB液は指定の割合で調合し、電動攪拌機を用い十分に混合（2分以上）して下さい。A液とB液の混合比率が不適切であったり、B液を調合していなかった場合は、低汚染機能が発現しません。また、タッチアップに使用する場合も、上塗のA液、B液の缶を良く振り、沈降分離していないものを指定の割合で計量調合し、電動攪拌機を用いて同様に混合し使用して下さい。
㉔A液とB液の混合後は可使用時間以内に使用してください。可使用時間を超えて使用した場合、作業性や仕上り、付着性が悪くなり、汚染機能が発揮しない場合があります。
㉕その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
㉖施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認下さい。

【安全衛生上の注意】

①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
②取扱い後は、手洗い及びうがいを充分に行ってください。
③子供の手の届かない所に保管して下さい。
④作業中・作業後は充分換気を行ってください。
⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
⑧中身を使いきってから廃棄して下さい。
⑨皮膚に着いた場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
⑪安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート（SDS）をご確認下さい。